国　語

【注意】

この問題はマークシート問題と記述式問題とにわかれています。
設問部分に「**記**」とあるものは記述式問題、「**マ**」とあるものはマークシート問題です。マークシート問題・記述問題ともにそれぞれ全問が通し番号になっていますが、記述式問題は設問ごとに個別にわけた解答欄となっています。
それぞれ所定の用紙・箇所に解答を記してください。

第1問　次の文の傍線部の読みを「ひらがな」で書きなさい。（慣用読みは正解としない）

記1　現時点での長期旅行の強行はあまりにも**浅薄**な行動だ。
記2　今回の対応には新たな治療の**萌芽**が認められる。
記3　この地区の拠点を**掌中**におさめる。
記4　初志貫徹を自身の**金科玉条**とする。

第2問　次の漢字（送りがなを含む）の読みが正しければマーク欄［1］を、誤っていればマーク欄［2］を、それぞれチェックしなさい。

マ1　眩しい〔まぶしい〕
マ2　遡る〔たどる〕
マ3　間隙〔かんすき〕
マ4　茫然〔ぼくぜん〕
マ5　土気色〔どきしょく〕

第3問　次の文の傍線部の「漢字」表記として正しいものをひとつ選び、それぞれ該当するマーク欄をチェックしなさい。

マ6　**キセン**を制する。［1］起先　［2］機先　［3］気先
マ7　閣僚を**コウテツ**する。［1］行迭　［2］硬迭　［3］更迭
マ8　意外な結果に**ギョウテン**する。［1］仰転　［2］仰点　［3］仰天

第4問　次の文の傍線部のカタカナを文意に即して「漢字」で書きなさい。各設問には異なる熟語が入ります。また、同じ解答が複数箇所に書いてある場合はすべて誤りとします。

記5　相次ぐ自然災害は人類への**ケイショウ**であると説く専門家がいる。
記6　貴重な遺産を後世へと**ケイショウ**する。
記7　事故現場から**ケイショウ**者を次々に搬送する。

第5問　次のそれぞれの語の対義語ないし類義語をあとの選択肢からひとつ選び、記号で答えなさい。また、対義語の場合はA、類義語の場合はBを、それぞれ区分欄に記しなさい。

記8　奔走
記9　調停
記10　排斥
記11　混濁
記12　丁寧

【語群】
ア．接収　イ．粗略　ウ．愚鈍　エ．徒歩　オ．尽力
カ．仲裁　キ．清澄　ク．鋭意　ケ．疎外　コ．温厚

第6問　次の文中には漢字の変換ミスが三箇所あります。それぞれの語を□で囲み、さらにそれを正しい漢字に直して解答欄のそれぞれの箇所（記13～15）に記しなさい。なお、順序は問いません。

社会全般に不安が蔓延している現状を商才に観察すると、それまで洗剤的であった負の方向性をもつ精神的な要員までもが顕在化しやすいと言え、それだけにいっそう医療者の負担が増しかねないと懸念されている。

第7問　次の慣用表現の空欄に入るもっともふさわしいものをあとの選択肢からひとつ選び、それぞれ該当するマーク欄をチェックしなさい。

マ9　〔　　〕を報いる
［1］一視　［2］一指　［3］一矢　［4］一死

マ10　業を〔　　〕
［1］煮やす　［2］増やす　［3］絶やす　［4］燃やす

マ11　児戯に〔　　〕
［1］久しい　［2］近しい　［3］乏しい　［4］等しい

第8問　次の語句の意味としてもっともふさわしいものをあとの選択肢からひとつ選び、それぞれ該当するマーク欄をチェックしなさい。

マ12　有象無象
［1］つかみどころのないこと　［2］事態の解決手段がないこと
［3］取るに足らないもののこと　［4］先行きの見通しがたたないこと

マ13　人事不省
［1］勝手な行動をとること　［2］ものごとに集中すること
［3］意識がなくなること　［4］将来への希望が失われること

マ14　野に下る
［1］目標達成を断念すること　［2］官職を退いて民間人となること
［3］活気のない生活を送ること　［4］素行が著しく悪くなること

第9問　慣用表現を用いた次の文の空欄には、それぞれ身体の部位をあらわす漢字一文字が入ります。文脈から判断してもっともふさわしい漢字一文字を記しなさい。同じ漢字を複数回使用することはできません。

記16　目標達成が不可能とわかり［　］を落とした。
記17　会話の途中で他者の話の［　］を折るようなことは慎むべきである。
記18　居丈高な彼の態度は［　］にすえかねるものだ。

第10問　次の傍線部の現代かなづかいが正しければマーク欄［1］を、誤っていればマーク欄［2］を、それぞれチェックしなさい。

マ15　あいずち（相槌）をうつ
マ16　期限がまじか（間近）に迫る
マ17　いきどうりを覚える（憤り）
マ18　おおらかな性格【注】漢字表記略

第11問　論述には、常に論理的に正しいものと、常に正しいとはかぎらないものとがあります。次の文章が論理的に常に正しければマーク欄［1］を、常に正しいとはかぎらなければマーク欄［2］を、それぞれチェックしなさい。

【注】「ゆえに」の前の二つの文の叙述内容は常に正しいものであると仮定します。また、叙述の内容が実社会の現実と合っているとはかぎりません。

マ19　この患者のリハビリは必ず奇数日におこなわれる。今日は七日である。ゆえに今日、この患者はリハビリをおこなう。

マ20　市内の総合病院にはすべて小児科がある。この病院には小児科がある。ゆえにこの病院は市内にある。

マ21　発熱の症状のある訪問者はこの高齢者施設には立ち入りできない。この訪問者は発熱の症状がある。ゆえにこの訪問者はこの高齢者施設に立ち入りできない。

第12問　次の文と論理的に同じ内容となる文を選択肢からひとつ選び、該当するマーク欄をチェックしなさい。

【注】叙述の内容が社会の実態と合っているかどうかを問うものではありません。

マ22　このクリニックに勤める看護師は全員、助産師の資格を有している。

［1］助産師の資格のない看護師がいれば、それはこのクリニックの看護師ではない。

［2］助産師の資格を有している看護師がいれば、それはこのクリニックの看護師である。

［3］このクリニック以外で働く看護師はすべて、助産師の資格がない。

第13問　次の文章を読んで、後の問に答えなさい。

同じ理由で、あなたは自分の外出を患者に告げておくこと、しかも、その外出が一日であれ一時間であれ、また十分間であれ、前もって外出と帰宅の時間を患者に告げておくこと。あなた方はたぶん、患者が自分の外出にまったく気づかなければ、そのほうが彼のために良いだろうとか、また患者にとって自分をそれほど「重要な存在」にしないほうが良いだろうとか思っている。あるいは、自分がちょっとのあいだ留守にすることで患者に苦痛や不安を与えるのは耐えがたいことだと思っている。

しかし、それはたいへんな誤りである。あなたは、《外出するのが当然》なのである。あなたの健康にとって、あるいは職務にとって必要な外出なのであろう。それならば、患者に率直にその旨を告げることである。もし患者の知らないうちにあなたが出かけ、あとで患者がそれに気づいたとしたら、彼は、あなたに任せてあることがあなたの留守中にどうなるかについて、二度と再び安心感が持てなくなるであろう。そして、十のうち九までは、患者の予測どおり、安心していられないという結果になる。あなたが帰宅の時間を患者に告げないで出かけたばあいには、患者は、自分とあなたの両方に関することや、あなたが自分にしてくれることについて、どうしたらよいか判断のしようもないし、対策の立てようもないことになる。

不慮のできごとや事故、あるいはとくに自殺などの報告書や、また死に至った症例の病歴などを調べてみると、あるひとが、それは女性であるばあいが多いのであるが、「そこに不在であった」がために起こった何事かに原因のすべてが帰するといった例が、信じられないほど多い。しかし、いっそう信じ難いことには、不在にしたという行為が充分に理由のあること、つまり正当な行為として認められている例が、ほとんどと言っていいほど多いのである。何ということか。その事故が起こったというまさにその事実が、それが正当な行為でなかったことの証拠ではないか。担当責任者が「《そこに》いなかった」ことは、まったく正当なことである。充分な理由があって他所へ呼ばれて行ったか、あるいは日常の決まった所用で、またはやむをえない事情があって席をはずしていたのである。しかし自分の不在を補うための対策は何も講じていなかったのである。そのひとが「出かけた」ことが悪いのではなくて、

自分が「出かけている」間を補うための管理が欠如していたことが問題なのである。太陽が皆既蝕となって暗くなれば、あるいは毎夜太陽が沈んで暗い間は、私たちは蝋燭をともして光を補う。ところが私たちは、病人や子供を受持つ担当責任者が不在のときには、それが臨時のばあいにせよ定時のばあいにせよ、誰かがその責任を補わなければならないとは考えもしないようである。

フロレンス・ナイチンゲール『看護覚え書（改訳第7版）』湯槇ます　ほか訳（現代社）

マ23〜28　次の各文が本文の内容と合っていればマーク欄［1］を、合っていない、もしくは本文に該当する記述がない場合はマーク欄［2］を、それぞれチェックしなさい。

マ23　あるひとの不在が自殺などの不慮のできごとの原因である場合は、不在にしたひとが男性であることよりも女性であることのほうが多い。

マ24　外出することを患者に知らせずに出かけることは、必要な外出の場合以外はしてはならない。

マ25　病人の担当責任者が外出するということは、管理意識の欠如であると言わざるを得ない。

マ26　看護にあたるひとが不在であることは、病人にとって苦痛や不安の原因となるため、できるだけ避けるべきである。

マ27　病人を担当するひとが必要な外出をする場合は、それを補う管理の策を講じておかねばならない。

マ28　担当者の不在中に何らかの事故が生じた場合、不在にしたその行為そのものは、理由の如何にかかわらず正当なことではない。

第14問　次の文章を読んで、後の問に答えなさい。

最重度の障害があると、意識があるかどうかも定かでない。

では意識がないというのはどういう状態なのか。一言でいえば「反応がない」という状態と定義されている。［　a　］世界的に使われているグラスゴー・コーマ（昏睡）・スケール（GCS）では、「刺激に対する開眼」を四段階、「言語反応」を五段階、「運動反応」を六段階に分けている。それぞれもっとも重い意識障害は、痛み刺激に対して「まったく開眼しない」、言語は「まったくなし」、運動は「まったくなし」という状態である。

日本では、「日本昏睡スケール（JCS）」が使われることが多いが、まず大きく三つの段階「刺激しないでも覚醒している」「刺激で覚醒する」「刺激しても覚醒しない」に分け、さらにそれぞれを三段階に分ける。もっとも重い「刺激しても覚醒しない」では下位分類として「痛み刺激に対して払いのけるような動作をする」「痛み刺激で少し手足を動かしたり顔をしかめたりする」「痛み刺激に反応しない」としている。

これらからもわかるように、医学では、意識というのは［　①　］とし、その程度を段階分けしている。重症心身障害の最重度の人たちは、「グラスゴー・コーマ・スケール」では、刺激に対して「まったく開眼しない」、言語は「まったく発語がない」、運動は「緩徐な四肢A**クツキョク**、伸展反応」や「まったくなし」という状態に近い。「日本昏睡スケール」では、九つの段階のもっとも重い二つの段階となる。刺激をしても覚醒せず「痛み刺激で少し手足を動かしたり顔をしかめたりする」「痛み刺激に反応しない」という状態である。

では、反応がないから「意識がない」と言えるだろうか。近年よく知られるようになった「筋萎縮性側索硬化症（ＡＬＳ）」は、運動神経が侵されていく病だが、感覚器、感覚神経は侵されない。末期になると「閉じ込め症候群（ロックド・イン・シンドローム）」の状態になることがある。身体はまったく動かなくなり、自分からは発信ができない。しかし本人の意識は［　ア　］であり、皮膚の感覚もあり痛みも感じるし、声や音も聞こえ、目も見え、周囲の状態はすべてわかる。しかし外部からみると、本人はまったく動くことがなく反応がなく、なにも感じていないし、考えていないし、意識がないように見える。

この「筋萎縮性側索硬化症」の末期の状態に対して、先に述べた「日本昏睡スケール」をあてはめると、［　②　］に該当することになる。本人の感覚や意識はまったく「正常」にはたらいているのに、「日本昏睡スケール」では「意識なし」となってしまう。［　b　］医学・医療では外部からの刺激に対して「反応」がないのを「意識なし」としているが、本人の意識は十分に「ある」のである。このような状態は他の疾患でも見られることがある。

重症心身障害の状態にある人についても、同じようなばあいがあるのではないかと感じてきたので、「意識」と「反応」を区別するために、外部からの刺激に対して反応があるか・ないかという状態を「外在意識」とした。つまり「外在意識」は「反応」という意味と同じことになる。ということは「外在意識」はないが、「内在意識」はあるのではないかという問題である。

（中略）

人間が外の状態を感じるのは、五感と言われる感覚器官である「視覚、聴覚、嗅覚、味覚皮膚感覚」による。そしてその感覚につながっての反応や判断があるが、それだけでなく外界の［　イ　］な状態を感じることができる。「よい雰囲気」とか、「いやな感じ」などB**バクゼン**とした印象であり、それは自分の身体や精神にとって「よい状態」なのか「悪い状態」なのかということによるのであろう。また［　ウ　］ではなくても、脳に記憶されている過去の体験が影響していることも多いであろう。

気持ちには「ほっとする」「なごむ」「いやされる」「気分が楽」などの表現で表される「感覚」があり、反対のばあいは「いらいらする」「落ち着かない」「腹立たしい」「気分が悪い」などいろいろある。その感覚は、「こういう状態だから気持ちがよい」などと「認知・認識」できることもあろうし、「もっと続くとよいが」とか、「このようにしたらもっと気持ちよく

なるだろうか」など「願望」や「思考」とつながっていることもあろう。しかし、いちいちそのようなことを考えなくても気持ちのよい状態は ③ のである。

〔 c 〕、外界を感じる感覚でもある「目」も見えず、ときには「耳」も聞こえず、そして「理解や思考」もできない、さらに「意識」があるかどうかも定かではない重い心身の障害のある人たちは、外界をどのように感じているのだろうか。外界の状態によって、本人の身体や「内面感覚」や「内在意識」は何らかの変化をおこしているのだろうか、どのように影響を受けているのであろうか。

この人たちは、感覚器に到達する刺激を外界からの〔 エ 〕としては意識していないであろうし、外界の状態の認識もできていないであろう。また自分の内部の感覚を意識にのぼらせることもできていないであろうし、それらの感覚にもとづいて何かをおこなうことはできない。それでは外界や身体内部の状態を「感じていない」「意識できない、していない」と言いきれるかどうかということである。（中略）

心身の障害が重いときには、外界の状態を認識することができず、内面の状態についても意識的には感じることができない。〔 d 〕その人は生きており、内外の環境に対して反応し、自らを変化させている。それは、その人の脳がその役割を担っているというのではなく、生命体全体として感じて、反応しているように思える。皮膚、皮下組織、筋肉、腱、骨、血管、リンパ系、さまざまな内分泌、種々の内臓などの器官がはたらいている。また脳神経系では、大脳自体の〔 オ 〕はあるが、脳の下部に存在している間脳、脳幹などの部位や脊髄、末梢神経、自律神経などは十分とは言えないにしてもはたらいているであろう。障害があっても身体の各器官が全体として ④ をもって存在し、はたらいていると言える。それらは不安定でもあり、有効性からいえば定かではないが、生きてはたらいており、それは生命体を維持・発展させる方向に動こうとしているはずである。その状態がよくはたらいていると、「快」という状態になるのではないかと思う。

重い心身の障害のある人たちへのとりくみは、心身の機能の改善のためもあるだろうが、基本的には「生命体の維持」と本人が「気持ちがよい」状態にあるためと考えられる。あえて言えば、c<u>この状態がこの人の「生命的存在」であり、「生きがい」</u>と言ってよいのではないだろうか。

髙谷清『重い障害を生きるということ』一部省略（岩波新書 1335）

記19 傍線部Aの「屈曲」を漢字で書きなさい。

記20 傍線部Bの「バクゼン」を漢字で書きなさい。

マ29　空欄 ① に入る最もふさわしいものを以下からひとつ選び、該当するマーク欄をチェックしなさい。

［1］非言語による「コミュニケーション能力」
［2］覚醒の「度合い」
［3］痛みへの「応答」
［4］外からの刺激に対する「反応」

マ30　空欄 ② に入る最もふさわしいものを以下からひとつ選び、該当するマーク欄をチェックしなさい。

［1］もっとも重い意識障害
［2］刺激しないでも覚醒している
［3］判定不可能
［4］刺激で覚醒する

マ31　空欄 ③ に入る最もふさわしいものを以下からひとつ選び、該当するマーク欄をチェックしなさい。

［1］ほとんどない
［2］気持ちがよい
［3］説明できる
［4］たまにある

マ32　空欄 ④ に入る最もふさわしいものを以下からひとつ選び、該当するマーク欄をチェックしなさい。

［1］明確な意思
［2］一定の秩序
［3］外在への意識
［4］内面の変化

マ33　文中の〔 ア 〕から〔 オ 〕に入る組み合わせとして最もふさわしいものを以下からひとつ選び、該当するマーク欄をチェックしなさい。

［1］〔ア〕明瞭　〔イ〕五感的　〔ウ〕感覚的　〔エ〕影響　〔オ〕機能
［2］〔ア〕不明　〔イ〕内在的　〔ウ〕身体的　〔エ〕反応　〔オ〕認識
［3］〔ア〕曖昧　〔イ〕視覚的　〔ウ〕空間的　〔エ〕侵入　〔オ〕損傷
［4］〔ア〕異常　〔イ〕一時的　〔ウ〕時間的　〔エ〕入力　〔オ〕反応
［5］〔ア〕清明　〔イ〕全体的　〔ウ〕意識的　〔エ〕情報　〔オ〕障害

マ34～37　文中の〔　a　〕から〔　d　〕に入る最もふさわしいものを次の語群からそれぞれひとつずつ選び、該当するマーク欄をチェックしなさい。同じ語の重複使用は認めません。なお、使用しないものがひとつあります。

マ34〔　a　〕
マ35〔　b　〕
マ36〔　c　〕
マ37〔　d　〕

［1］しかし　［2］たとえば　［3］なぜなら　［4］つまり　［5］では

記21　傍線部Cの「この状態がこの人の「生命的存在」であり、「生きがい」」とはどういうことか、簡潔に説明しなさい。解答は五〇文字以上六〇文字以下の一文で記すこと。句読点も一字分とします。冒頭の一字下げは不要です。